

自由について——トムからの一言

【訳者注】これは、訳者の説明がなければわからないだろう。Tom Feeley は、我々のよく利用させてもらうサイト、Information Clearing House の主宰者である。これは 14 年前のもの、再録のようだが、その年月の間に、ここに言われていることの真実性はさらに意味を増してきた（特に、アメリカ例外主義）。彼は一切、広告に頼らず、自費と読者からの寄付だけでこれを経営しているために、しょっちゅう窮状を訴えている。（もちろん、これは彼に限らず、このような良心的な意見や情報を載せるサイトは、ほとんど事情は同じはずである。）もしこれがなくなれば、我々が世界情勢の正しい情報に接する手段は、確実に半減するであろう。

私はここに、トム・フィーリー氏に対する、深い感謝と、その正義感と勇気に対する深い敬意をこめて、これを掲載させていただく。

コメント欄で圧倒的な支持を得ている、次のコメントに、すべてが言い尽くされているように思う——

「トム、ありがとう、これらの雄弁な言葉と、深い感情に感謝する。主流メディアでは敬意を払われない、これらの見解に発表の場を提供する、あなたの献身的な、忍耐強い働きがなかったら、こうした見解が我々に届くことは難しかったであろう。

この素晴らしい仕事を続けていただきたい。

読者よ、もしあなたに余裕があるならば、わずかでもトムへの援助をお願いしたい。」

Tom Feeley

August 2, 2017 (First Posted December 24, 2003), Information Clearing House



我々が他者の苦しみを見無視するならば、人間として我々は何なのだ？

あなたがアメリカ人だろうと、イラク人、イスラエル人、パレスチナ人だろうと、またどんな旗の下に生きていようと問題はない。あなたがある神を崇拝していようと、その神の名が何であろうと問題はない。あなたが私を、好きだろうと嫌いだろうと問題はない。

問題は、私が、私自身と私の家族に要求するのと同じ尊厳と敬意をもって、あなたが、扱われるべきだということだ。実際、私はそれを要求する！

私は、一人ひとりの権利が、その出生地に関わらず、尊敬されることを要求するが、それは、彼らの財産や業績のためでなく、この地球上に生まれた者すべての生得の権利である、人間の尊厳のためである。

人生が我々に要求するのは、他者を犠牲にして栄えることでなく、我々が我々の人間性を分かち合い、誰が犠牲者か、誰が悪者かに関わりなく、犯罪を犯罪と呼ぶことである。

我々の手が何世紀もの血で汚れているにもかかわらず、傲慢にも、自由を論じつつ、この世界を歩くことをやめようではないか。

犠牲者であるこの世界に向かって説教し、2,759人の、9・11事件で死んだ人々の潰された死体を武器にを使って、我々の手による同じ荒廃を、長く経験してきた一つの世界を、略奪することをやめようではないか。

我々の涙と、正義を要求する叫びは、自分自身の善をあまりにも確信するある国家によって爆撃され、脅されてきた世界にとっては、苦々しい嘲けりである。

自分の過去を顧みることなく、他者に苦痛を与えてきた自分の性格の、その部分を確かめることもなく、人生を生きてきた者は、暴君である。自分の犯罪と犠牲者の苦しみを、認めることを拒否する国家や国民は、世界にとって悪であり、その報酬として期待できるのは悪だけである。

他者の痛みよりも、自分自身の苦痛が重大だと考えるとしたら、それは、どれほど貧しい人間であろうか。

「権力は常に、自分は偉大な魂をもち、弱者の理解しえない、遠大な展望をもっていると考える。そして、そして、すべての彼の法律を踏みにじりながら、自分は神に仕えているのだと考えている。」——ジョン・アダムズ